

図面の正確さと美しさを追究。
設計技術で工場の安定稼働と製品の品質を支えています。

東洋製罐株式会社 入社
この分野・仕事を選んだきっかけ

谷 龍太郎さん

精密機械技術者・研究者

2022年 専門課程 生産技術科 修了

高校時代から機械加工や設計に夢中になっていた谷さん。四角いものを削ってかたちにしていくのが子どもの頃の図工みたいで楽しかったのだそう。高卒での就職も検討したが、志望する設計職に就くための専門性を習得するために滋賀職大へ。現在ともに働く上司の櫻井さんも「CADの習得や図面を描くスピードも早く、入社1年目から良いスタートを切れた。学生時代に習得してきたことが活かされているのだと思う」と評価しており、今後は工場全体の製造ラインを設計できるようになるのが谷さんの目標だ。



設計から取付・稼働まで携われるやりがいがある仕事です

この仕事や研究の魅力・やりがい

飲料や食品、生活・家庭用品に使われる容器を製造・販売する会社に勤務しています。私が担うのは製造ラインにおける機械部品の設計。製品の品質管理・向上のために欠かせない業務です。機械には凹凸があり立体的なので寸法を測るのが難しく、数ミリのズレがミスにつながる非常に繊細な作業です。また、毎回新たな課題に取り組むため、見本のない真っ白な状態から図面を引き、一つひとつ寸法を入れていく必要があります。その分、図面の正確性や美しさを追究しがいがあります。想定していた通りに機械が稼働し、現場の作業員から「良くなった」という声をいただいた時には達成感を感じ、次の課題に向かうモチベーションになっています。



上司のサポートのもと日々新たな課題に挑戦しています

この分野・仕事を選んだきっかけ

もともと車が好きで、中学生の頃には自動車整備士になるのが夢でした。工業高校の機械科へ進学し、ものづくりを学ぶ中で夢中になったのは製図や機械加工。部活動でも機械工作部に所属し、当時から滋賀職能大の設備を借りて作業することもありました。そんな滋賀職能大への入学を決めたのは、希望する設計職で就職できるよう実践力を磨きたかったからです。



在学中に3次元CAD設計の面白さを知りました

学校で学んだこと・学生時代

滋賀職能大の強みは即戦力を育成しているところ。世界共通の設計・製図のルールを基礎から学び、実際に現場で使われる工作機械や最新の自動制御技術に触れながら実践力を磨くこともできました。2年間で様々なことを学びましたが、私にとって一番の思い出は学校生活の集大成となる総合制作です。私は4名のグループで役割分担してオシレーティングエンジンを設計・製作しました。仲間と協力して製図から機械加工、仕上げまで一連の流れを経験できたのは大きな自信になりました。そんな経験を買っていただき、最近では設計技術に加えて機械加工部門も担当しています。今後も学校で学んだことを活かしてさらに大きく飛躍していきたいです。

